

第1回 サポーターカンファレンス

2013.1.13（日）14：00～17：00

出席者：

クラブ代表：守屋実
強化本部長：楠瀬直木
営業・ホームタウン担当：大友健寿
運営担当：田口智基
広報担当：近藤安弘
町田ゼルビアを支える会：石黒修一
CURVA MACHIDA：大城尊
LOS CUMBANCHEROS：工藤賢一
ゼルビアサポーター：100名強

司会：松永敦（FC 町田ゼルビアボランティアスタッフ）

記録：小里綾子

司会：

本日のカンファレンス開催の目的について支える会の石黒より説明して頂きます。

石黒：11月12日にFC 町田ゼルビアのJ2最下位が決定しました。それに伴いチームへの不満や不安感が蔓延し、そのことから、LOS CUMBANCHEROSの工藤氏のtwitterでの呼びかけで11月18日に野津田公園にて第1回となるサポーター集会が行われ、クラブに対する質問書が作成されました。それと同時にCURVA MACHIDAの大城氏、支える会の石黒が各々でクラブに対してサポーターカンファレンスの実施をお願いしていました。ここまで各々別の働きかけをしていましたが、支援団体同士で話し合いをし、合同でクラブに要望書を提出し、次なるシーズンに向けサポーターが一丸となり、クラブとサポーターのコミュニケーションを図っていくことを目的とし、サポーターカンファレンスの実現に向けてクラブに働きかけることになりました。そこで、12月1日に大城氏、石黒でクラブに赴き、サポーターカンファレンスの要望及びその必要性をフロントのスタッフの方々に説明させて頂きました。クラブ側としてはクラブ史上サポーターカンファレンスを実施したことがないことや、ネガティブな情報が錯綜する中、カンファレンスの実施は困難なのではないかという意見を頂きましたが、予めサポーターの気持ちをまとめた質問書を提出の上、その質問書にクラブスタッフが答える形でのカンファレンス開催の了承を得ることができました。そこで12月16日に第2回サポーター集会が行われ、質問書作成のための意見や質問を精査し、12月27日クラブにその質問書を提出し、本日1月13日のサポー

ターカンファレンス開催に至りました。このサポーターカンファレンス開催を今シーズンを戦いきる糧にしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

会場拍手

司会：

ではまずは【1】サポーターとのコミュニケーションについての質問のご回答を頂きたいと思います。

田口：

今回このようなサポーターカンファレンスをクラブとしても初めて開催することとなりました。今後の開催についてもサポーターの皆様の代表である各支援団体の協力のもと、サポーターの皆さまと直接的なコミュニケーションがとれる場として、クラブとしても継続的に開催していきたいと考えています。

守屋：

未発表ではありますが、クラブ代表を退くことになりました。時期的にマイナスのイメージを捉えられてしまうため、正式には発表しておりませんが、（辞任の件については）昨シーズン中から自分の意思として考えてきたことです。今後は相談役という形でクラブには何らかの形で残るとは思いますが、クラブというのは、神輿のように色々な人が入れ替わり立ち代りで担いでいかなければならないもので、これまでも色々な人がクラブに関わり去っていきました。ですから、また別の人がクラブを支えていってもらえたらと思います。また、代表は退くことになりますが、今後はまた違った形でクラブに関わりたいと思っています。本当にたくさんの方に支えられ、私にとって非常に楽しい20数年間で少し、挑戦でもありました。ありがとうございました。

さて、経営状況についてですが、正式な発表はJリーグから8月に発表があるのでそちらを参考にして頂きたいのですが、3、4日前、会計事務所で今年の着地点について予想を行いました。ご心配をおかけしましたが、結論として債務超過にはなりませんので、黒字になって終われます。成績とは異なり、そちらについてはJリーグからの要求に応えられる形になります。今シーズンについては昨シーズンよりは厳しい状況であると見込まれています。しかし、JFLに降格したからといってスポンサーを降りるという話は少なく、大きなスポンサーさんも継続して支援して下さるという話です。小田急さんもそれなりの広告価値を認めてもらえて頂いたようです。皆さんも心配していらっしゃると思いますが、それだけ（FC町田ゼルビアがスポンサーに対して）貢献しているという理解です。しかしながら、予算総規模としては成績と同様にJリーグ中最下位で5億円に満たないものでありました。

次にクラブの理念については、多くの方がすでにクラブの理念をご存知だと思いますが、改めてこの場をお借りして是非皆さんの前で、このクラブがどのように誕生して、どのような思いをもってここまで来たのかということ、もう一度知って頂いて、そして皆さんとその意識を共有しながら、このクラブを見守ってくださればいいと思います。

クラブ創設には二つの流れがありました。ひとつは1977年のFC町田ジュニアの結成になります。それまでは町田市内の小学生がバラバラで活動していましたが、何とか町田のチームで日本一になろうということで、FC町田トレーニングセンターを設立しました。結果、町田市内の小学生が集まって、1978年春に長谷川健太や大榎克己らを有する清水と対戦し勝つことができ、藤枝の大会で優勝することが出来ました。翌年からFC町田として全国大会に出場し、その後ジュニアユース、ユースが出来、1989年にトップチームが出来ました。

もう一つの流れとして、Jリーグ結成の前年の1992年に町田に「Jリーグチームを誘致する会」が設立されました。それはどういうことかと言うと、横浜フリューゲルスというチームが町田に移転したいということで、そういう働きかけが行政側と町田サッカー協会へありました。上の原に練習場を作ろうというようなかなり具体的な話が進みましたが、当時のJリーグのハードル(入会基準)が相当高く、行政側が断念しました。しかしながら、「Jリーグチームを誘致する会」の運動は後に残ることになり、誘致する会が中心となって、町田でサッカーフェスティバルを始めました。そして第1回のサッカーフェスティバルでは青年会、サッカー協会、一般市民など40人程が参加し、一緒になってスローガンを考え、その時初めて、サッカーの流れと青年会議所のような街づくりの流れが一緒になりました。1992年度のスローガンは「未来へはばたけ青少年」、翌年度のスローガンは「目指せ、熱き36万人のキックオフ」でした。この二つのスローガンのなかに、クラブの理念が詰まっています。それは、今後町を背負っていこうという子ども達に対するメッセージであり、子ども達の健全な成長に寄与できる活動をしていきたいと思いますという理念。そして、町田のみんなの希望と誇りとなるようなクラブにという理念、すなわち地域を意識した理念です。私が子どものときに大勢の人が一気にこの町に住みついたのですが、二つ目の理念というのは、この町に本当にアイデンティティがないという時代があり、何とか町田をふるさとと思ってほしい、またこの町の誇りと思えるようなクラブにしたいという思いが込められています。

もうひとつの目的として、総合スポーツクラブを目指す、ということがあります。それはサッカーだけが栄えるのではなく、Jリーグの理念でもあるのですが、総合スポーツクラブを目指しましょうということです。皆さんはゼルビアが総合スポーツクラブを目指しているのをあまりご存知ではないかもしれませんが、ですが去年はシルバーの60歳以上の方を対象としたウォーキング教室を開催したり、栄養教室を開催したり、キッズチアを開催したり少しでも色々なスポーツを広めていこうという運動もしております。大きく分けると

この三つが理念となります。総合スポーツクラブを目指すというのも大きな特徴のひとつでもあります。しかし今は、その当時にこれらの思いを語っていた人たちはほとんどいません。ですから、このお正月に職員の顔合わせでこの思いを引き継げる職員になってください、思いを引き継げる活動ができる職員になってください、という話をしました。例えばどんなことか・・・ここにいる田口さんは昨年最終節後の雨の中、ふれあいサッカーを実施しました。今シーズン最後なのでやりましょうと。すなわちこれは子どもたちの為という理念に基づいた活動です。その時、私は思いが詰まった、思いを引き継いでくれた活動だと感じ、大変嬉しかった。この理念というのはとても難しく、理念だけではやっていけない。選手についても町田の選手を残したいという思いは皆さんにもあるでしょう。私も1992年の日本サッカー協会の機関紙に「町田をフランチャイズとしたプロチームを作りたい、清水のような形は難しいかもしれませんが、下部組織が出来ている町田の将来にとって、FC 町田で育った人材をどのようにトップに繋げるかが大きな問題です。そのためにプロチームがトップにあったなら本当に強くなります。」と書いています。ですが、この10年間、育成が失ってきたものはとても大きかったです。活躍してくれていた津田君や酒井君はその更に前の10年間で育ってきた選手です。この10年間は育成部門への力が非常に足りなかったのだと思っています。そこで今後の展望にも繋がってくると思いますが、当然私たちのクラブは育成をしなければなりません。育成というのは10年かかります。今がダメであったということは10年前がダメであったということです。失われた10年間を取り戻すために、10年とは言いませんがここ数年のうちに町田出身の選手がトップチームに上がってくるということは町田という地域にとってとても大事なことであります。それをこれからやっていきたいと思ひますし、まだ公式発表にはなっていませんが、酒井君が育成の方に来てくれます。彼は思いを持っています。クラブ創設者の重田先生は大友君や竹中君や酒井君を呼んで「お前たちがこれからクラブをやっていくんだ」と話せない中、手紙で思いを残してくれました。酒井君にはこれから、その思いを育成にぶつけて町田からいい選手が出るようにして欲しいと思っています。

一つ目は中期的なこと長期的なことで大切なことは育成に力を入れるということ、二つ目はクラブは色々なことにチャレンジしていく、当然目の前にあるのはJ2です。目的や理念からすると決してJリーグである必要はないのですが、町田市民の希望や誇りとなるには挑戦していくことが町田市民を元気付けることだと思います。単にJリーグに戻るということではなく力をつける、そして安定した経営もしないといけない。そのためには今のような中規模の経営ではなく、倍以上近くの規模がなければしっかりとした経営ができないのではないかと思います。私たちができるとても大切なことは足元のことだと思います。チームが東京都リーグのころに野津田の競技場を貸して下さいと市にお願いしたとき「町にたくさんクラブがある中でなぜゼルビアさんにだけ優遇しなければならないのですか」とスポーツ課で軽くあしらわれた事があります。しかし一步一步形が見えてくると、皆さんは評価してくれます。なぜ市長が何十億というお金をかけてくれたのかといえは、やは

りそれだけこのクラブが町にとって大切な存在になってきているからだと思います。今日もこれだけたくさんの方が来て下さる、信じられないことですよね。応援にしても東京都リーグ時代は10数人でやっていただけでしたので。それはもうこのクラブは地域の公共物となったということです。絶対に潰してはいけません。次の世代に、50年、100年後もこの町にあり続けることが長期の展望だと思っています。そうしたらこのクラブは成功したということになります。当たり前で市民の生活に溶け込んでいる、50年経ってもクラブが存在していればそれが本当の成功だと思っています。そのためには今、足元をみて、大友さんが町に出て町の人たちと話し、お祭りにも参加する、それは遠回りで小さなことです。50年後、100年後に繋がることだと私は信じています。

長くなりましたが、皆さんと一緒にこのクラブを見守り育てていきたいと思っています。しかし現実にはなかなか思うようにいかずに、クラブとの距離が遠くなり寂しさも感じるかもしれませんが、組織となった以上はその立場となった人に責任を持ってやってもらわねばならないと思います。根本にある理念というのは毎年の目標が変わろうとも、変わってはいけないものだと思いますので、それをやり続け皆さんと共有しながらやっていきたいと思っています。クラブで社長がエンジンだとすれば私たちはハンドルで多少曲がりくねろうが、理念に向かっていければいいと思います。

総合スポーツクラブとしても色々なスポーツが出来る環境を整えていきたいと思っています。長い時間お話をさせて頂きましたように、今までたくさんの方がこのクラブを背負って来ました。皆さんも私たちとはまた違った立場でこのクラブと一緒に背負って頂ければと思います。

長い時間どうもありがとうございました。

会場拍手

司会：

では質問書【2】来シーズンの観客動員についてお願いします。

田口：

観客動員については例年、日程・対戦相手を確認のうえどこであれば人がたくさん入れられるかを検討し計画をしています。昨シーズンであれば約5試合程ある一定の集客がみられるであろうと予想していました。結果的に満員となったのは最終戦でした。（集客が見込めるであろうと予想した試合が）平日のナイターや、雨であったという不運もあり集客が伸びませんでした。今シーズンの日程も出てきており、検討していますが正直、今シーズンはアウェーのサポーターに頼るということは期待できません。近場のクラブだとしてもJFLではサポーター数が多いわけではありません。今シーズンはいかに自分たちの力で、町田というものの力でスタジアムを満員していくかがひとつの課題であると思っています。

す。

(割愛)

ずばり申し上げますと、開幕戦は1万人入れるということで動いています。

根本的にクラブとしては昨年平均3600人、その前は3500人で100人程度しか増えていないと思われるかもしれませんが、常にスタジアムを満員にするつもりで考えて動いています。それがまだ様々な点で力不足であり、結果として3600人という数字になってしまいました。昨シーズンのアウェーのサポーター数は1試合400～500人、つまり3200人くらいが町田サポーターとなります。単純に(計算すると)更に6800人をつまなければならない。町で一人ひとり1万人に声をかけるわけにはいきません。町でのチラシ配布では1%の集客、招待券配布時では2～4%の集客となっています。一番反応の良い方法で4～5%とし、1万人集客となると20万枚配布、つまり町田市民の半数という非現実的な数字となります。そこでまずは団体、大きな組織に働きかけ、その個々人がいかにもう一人を誘ってきてくださるかということになります。例えばサポーターの皆さんが3200人であれば、もう一人連れて来て頂ければ6400人となる。皆さん頼みになって申し訳ないのですが、そのようにして他クラブも集客しているのだと思います。クラブが何か施策をうてば確実に人が入るのかというと実はそうではなく、集客という点からはクラブだけでなく皆さんと一緒にやっていかなければいけないと思っていますので、ご協力頂けたらと思います。

団体への働きかけとして、町田サッカー協会の会員が約3000人、町田市役所の職員が約3000人います。町田サッカー協会には昨シーズンも日程調整の段階からすでに協力体制を敷いており、どのようにしたら協会の皆さんが来てもらえるのかなどを話し合っていますし、数年前からサッカー協会に所属されている方にはチケットも特価でおろさせてもらっています。サッカー協会全会員がスタジアムに集まっていたような日ができたらと思っています。

町田市役所については、開幕戦1万人入れるという話を市にもさせて頂き、(市内でも)1万人集客のために動いて頂いております。(会場どよめき)まずは開幕戦少しでも1万人に近づきたいと思っています。しかし、市役所の職員の方々に(全員来たとして)3000人、昨年の町田のサポーターの皆さん3200人全員に来て頂いてもまだ足りません。開幕戦に限らず一人でも多くの方を誘って頂きたいと思っていますのでサポーターの皆さんに協力をお願いしたいと思っています。

あるクラブの話となりますが、(そのクラブが)ホームスタジアムを移転したとき、サポーターが1人になってしまった。アウェー戦でサポーターが太鼓叩きの1人しかいなかったが、それが今は2000～3000人に増えた。大きな箱に2000～3000人は少ないと感じられるかも知れませんが、1人のサポーターからそこまでの人数に増やしていった。メインスタンド、バックスタンドの集客はクラブの責任、ゴール裏の集客はサポーターの使命として

やってくれた。そういった方々が(今でもそのクラブの)ゴール裏にはいらっしやいます。そのような事例もあるということ踏まえたうえ、集客についてはクラブとしても動かなければならないが、サポーターの皆さんと一緒に作りあげ、そしてスタジアムを盛り上げ、劇場空間を作りだせるのではないかと思います。開幕戦を含め5試合は1万人入りたいと思っています。何かのタイミングでこの試合は1万人入れる旨を告知しますので、その際はどうぞ宜しくお願いいたします。

会場感嘆と拍手

司会：

ありがとうございました。それでは次に【3】町田市立陸上競技場アクセスについてお願いいたします。

田口：

昨シーズンはスタジアムにお越し頂くにあたっては非常にご不便をおかけしました。が、クラブとしては湘南戦で湘南のサポーターが多かったのかもしれませんが7000人の集客が出来たということは、言われているほどアクセスが悪いわけではないのではないかと考えています。東京ヴェルディ戦のときは自転車・バイクがとても多かったと記憶しています。もちろんスタジアムのアクセスの条件としては駅近が良いにこしたことはありませんが・・・。

町田のサポーターの方々にも自転車・バイクで来場してくださる方が増え、非常に感謝しております。

今シーズンは多くても200～300台の駐車場をご用意できる方向で町田市と検討しております。しかし1台に4人乗車してきても1200人にしかならないということで、少しでもスタジアムに近く(にお住まいで)可能な方は徒歩か自転車で来場頂きたいのと、路線バスの利用をお願いしたいと思います。

路線バス化については町田市やバス会社の兼ね合いで詳細は話すことができませんが、前進しているということだけはお伝えさせていただきます。市役所の担当は道路整備課となっておりまして、前に進んでおります。

来シーズンのスタジアムへの交通手段としては路線バス、自転車・バイク、徒歩、車、未定ですがクラブが運行するシャトルバスとなります。1万人のスタジアムとしては200～300台の駐車場数では足りないとは思っています。しかし、(あるクラブで)2万人収容のスタジアムに1万人の来場者数があった時、駐車台数は3000～4000台となりました。それだけの駐車スペースはありましたが、周囲の交通渋滞が激しく交通マヒが起きたと聞いています。1万人集客が一過性のものであれば、交通渋滞も許容できるのかもしれませんが、クラブとして1万人集客を継続としていくと考えた場合、自転車や公共交通機関を利

用して来場するという気持ちを持って頂ければ、継続的に 1 万人集客できるクラブとなっていくのではないかと考えております。

よく、山登りや秘境などと聖地野津田は言われていますが、一昨年にフットパス（ウォーキングの様なもの）を楽しみ、最後に野津田でサッカー観戦するという企画をフットパスの団体と協力して行ったが、申し込みが非常に少なく残念な結果に終わってしまいました。この企画はサポーターの皆さんには告知はしていなかったと思いますが、フットパスに興味のある方をゼルビアにも興味を持ってもらい、またゼルビアのサポーターの皆さんにはフットパスに興味を持ってもらい、相互の理解を深めようという企画ではありました。昨年は芋掘りという企画でした。集客とアクセスは非常に密接した問題ではありますが、路線バスについては前向きに進んでおり、駐車場も少しは用意しますが、今後も徒歩、自転車、バイク、そして公共交通機関の利用をお願いしたいと思います。以上になります。

会場拍手

司会：

どうもありがとうございました。続いて【4】地域活動についての質問の回答をお願いします。

大友：

ふれあいサッカーについてですが、昨シーズンは天気や時間の関係で実施回数が少なくなりました。しかし試合後にふれあいサッカーをすることについて、対戦相手のクラブからも感心いただき J リーグクラブとは本来こうあるべきという事を J リーグにも示すことができた活動でした。天候等の問題はありますが今後もふれあいサッカーは継続したいと考えていますのでご報告させていただきます。

また、地域活動については昨シーズン、夏祭りなど呼ばれる前にクラブ側から問い合わせをして参加をするということにもチャレンジしました。初めはそんなに乗り気ではなかった主催者側からもゼルビーが参加することでとても喜んでもらえました。実際、ゼルビーなどが夏祭りなどのイベントに参加したことによるチームの理念や認知、集客にどれくらい効果があったのかは把握できていませんが、今シーズンはクラブにもその活動効果を報告できるような形にしていきたいと考えています。参加申し込みをされたところには日時が可能な限り参加するようにしていますので、皆さんからの要望（例えば、お子さんが通園する幼稚園など）もあれば電話や FAX で申し込み頂ければその都度対応させていただきます。

この地域活動はゼルビアの存在アピールのみならず、ゼルビアの理念の認知及びスタジアムへの集客、スタジアムへの来場のきっかけを目的としています。出来る限り多くの方に FC 町田ゼルビアの選手やマスコットを近くで見てもらい、一度スタジアムに来場して試

合を見て、スタジアムの雰囲気を感じてもらい、そして試合に勝利して再来場を促し、その輪を広げていきたいと考えています。お願いばかりで恐縮ですが、今後も皆さんの協力をお願いしたいと思います。以上になります。

会場拍手

司会：

どうもありがとうございました。それでは次の【5】告知・PR・情報発信についてお話をお願いいたします。

近藤：

昨シーズンもポスターやチラシ配布など様々な活動にご協力頂きまして、ありがとうございました。

まずはテレビ、インターネットでの試合の配信についてですが、クラブ主導でも何十数万円の放映権料がかかり、クラブの予算状況では困難だと考えています。某テレビ局さんにも打診をしましたが、多大な費用がかかるため難色を示されました。海外では普通となっている1放送ごとに視聴料を支払う方法もごございますが、こちらでも簡単なことではございません。クラブとしては引き続きケーブルテレビさんなどをお願いをして、(SC)相模原さん等との試合の放送などを訴えかけていきますので、新しい情報が入りましたらHPで発信したいと思います。

その他、紙媒体等では昨シーズン同様、クラブで写真や試合結果、コメントなどを提供して随時掲載を依頼する予定ではあります。現在はJリーグチームでないということで、スポーツ紙、一般紙などでは反応が薄いのですが、地元メディアのタウンニュースさん、サンケイリビングさん、町田経済新聞さんには引き続き取材して頂けるとのことですのでこちらにも積極的に働きかけて、情報を発信したいと思います。また今年も引き続き、朝日新聞の折込で弊社が発行しているゼルビアプレスやNPO法人K-pressさんのご協力による月に1回のマンスリーゼルビアは提供していく予定です。

(割愛)

次にモバイルサイトについてですが、これはホームページの運営費を安く運用しており、その運営費を賄うためにモバイルサイトを有料とし、その収益を運営会社と折半する契約となっているため有料とさせて頂いています。広く知ってもらうためには無料で誰でも閲覧できるものがよいと承知はしていますが、ホームページの作成で数百万円となりクラブの予算では持ち出しが厳しいためそのような契約になっております。そのため、今後も有料となることをご理解・ご協力頂きたいと思います。もちろんクラブとしても有料に見合ったコンテンツを充実させ、皆様からのアイデアも頂きながら運営していきたいと考えて

います。具体的な数字で申し上げますと、現在 500 人ほどの会員がいらっしゃるのですが、運営サイトとしては、1000 人の会員がないと運営コストの回収も出来ず、現状では運営費が値上げされる可能性もでておりました。現状の予算でもやりくりできるように 1000 人の会員を目指していますので、ゼルビアを助けるためにも友人・知人にもモバイルサイトを一度見てもらえるよう勧めて欲しいと思います。

街中での告知・PR についてですが、駅での広告などは非常にコストがかかるので難しく、クラブとして出来るのは昨年同様今年もチラシ配布やポスター配布となります。今シーズンも小田急電鉄さんや玉川学園さんに協力して頂き試合告知のチラシの作成、クラブとしてはシーズンの試合日程のポスターの作成をすることとなっておりますので、引き続き地域の商店街さんや企業さんに配布する際は、支える会を中心とした皆さまに配布のご協力頂きたいと思います。今後も街中での PR 活動としてはホームタウンでのゼルビーを活用したチラシ配布活動や選手によるチラシ配布活動を行っていきます。また、こういったエリアで配布活動を行ったらいいかのご教示を頂けましたらクラブで精査し足を運んでいきたいです。以上になります。

司会：

どうもありがとうございました。それでは最後の質問となります、【6】来シーズンを戦う上での強化方針につきまして、ご回答をお願いします。

楠瀬：

昨年度はユースの監督をしていたのですが、急遽、アルディレス監督の解任や唐井 GM の退任により仕方がなく祭りあげられてしまいました。こんなに多くのゼルビアを愛するサポーターの皆さんを目の前に仕方がなく・・・なんて言うてはいけなのですが・・・。私は指導が専門でその分野で色々なクラブを渡り歩いてきました。その度にそのクラブの建て直しの場面に遭遇するのです、それが自分の性分なのかと思っています。

この様な会が本日あるということで、是非何かの力になりたいと思いました。おこがましいかもしれませんが、自分のスタンスはその土地、その人の家族・友人の力になれば、サッカーの御用聞きになれば私の幸せだと思っています。選手にもそのようなスタンスで関わっています。

本日の質問は（質問書を読み上げて）「チーム作り、構想、スタイルが一番気になる」となっています。もちろんその部分についてもお話させて頂くのですが、逆にサポーターの皆さんが一番知りたいこと、関わりたいこと、見たいことは何だろうか自分なりに感じているものはあるのですが、町田という土地では皆さんはゼルビアに何を欲しているのかを聞きたいと思っています。

サッカーは誰のものかと育成の選手からトップのプロ選手までみんなに尋ねるのですが、サッカーは育成年代においては選手とその家族、友人。プロチームであればチケットを購

入して観に来てくれるサポーター、またチケットを貰って観に来てくれた方々のものだと思います。サッカーをすることでその選手の家族が喜んでくれる。お客さんが観に行くことで勝敗に一喜一憂したり、ストレスを発散したり、幸せになったり、酒の肴になったりする。そういったことで豊かなスポーツ文化が生まれると思っています。サッカーチームは私のもの、守屋さんだけのもの、クラブだけのものだとは決して思っていません。選手やその家族、観に来てくださるサポーター、裏で支えてくれる方々のものでもありません。

鹿島や仙台が快進撃を続けているとき、観に来る人がどんどん豊かになり、その選手もその恩恵にあずかり豊かになる。そうなる結果は自ずとついてきます。遠回りのように見えますが、そこが大事なところだと思います。

強ければどんな選手を連れてきてもいいのか、お金さえあればクリスティアーノ・ロナウドのような選手を連れてきて試合に勝てばよいのか。そういうことでなく、その土地にどのように文化が根付いて皆さんがどのように豊かになるか。3年後、5年後10年後にもプラスになる中長期ビジョンで、その土地が豊かになるようなお手伝いが出来ればそんな幸せなことではないと思っています。

酒井君が育成に入ります。あるべき姿として（地元出身の）大友君、星君、竹中君、齋藤貴之君、そういう人たちがこのクラブを支えていく。将来的には竹中君がトップチームの監督になるかもしれませんし、大友君が社長になるかもしれない（会場笑い）。そういう事がこのクラブのあり方なのではないかと思っています。そこで育成理念やチーム作り、地域の関わり方などで、その後押しができればそんな幸せなことではないと思って参加させて頂いております。

今年はJ2復帰が第一目標ではありますが、それも含めてチーム作りをさせて頂いております。しかしそんなに豊富な資金があるわけではありませんので、限りある予算の中でやっていくしかない。かなりの選手が出ていってしまいました。現時点で昨年からの選手は11人しか残っていません。そして12人の新入団の選手が決まりました。まだ2、3人の返事を待っているところです。私の繋がりや安くレンタルしてくれるところはあるのですが、レンタル選手は返さなければなりませんので、欲しくても取らない事もあります。レンタルでも町田が買い取る時に来てくれるという意気込みのある選手、それになるべく町田にゆかりのある選手をとっています。

昨日ユースの会の集まりがありました。今年のトライアウトの目玉に三都主君がいましたが、父兄になぜ三都主をとらないのかと言われました。（会場笑い）逆になぜ三都主なのかを聞き返しましたが・・・3年後、5年後にその選手のいる意味というのを考えた場合に手を出していいのかどうかと考えます。

そんな中で秋田監督を中心に15日から始動しますが、既に午前中の自主トレを小野路で始めています。そこには北井や勝又も町田を去るのですが、練習場所がないということで小野路で練習しています。クラブによっては移籍した選手には施設を使わせない所もあるの

ですが、サッカー仲間であるので練習に使ってもらっています。勝又という選手は手放してはいけない選手であり、今回は泣く泣く移籍することとなりましたが、いずれ帰ってくる時には引退試合を町田でやってあげたいですし、そのまま（フロント入りし）育成や営業に力を注いでほしいと思っています。今回は町田を去ることになりましたが、やはり選手として少しでも自分の価値あげ、上を目指すべきだと思うし、日本代表を目標とし、少しでもレベルの高いところでやって欲しいと思います。クラブとしても勝又を引き止めるための手は尽くしました。クラブとしては超高額オファーをしましたが（会場笑い）、栃木のほうが超超高額オファーだったということで（会場笑い）このようになりました。もちろん選手も生活をしていかなければならないので、それでがんばってもらえればと思っています。

15日からキャンプまで2部練でやっていきます。キャンプが2月13日頃から始める予定です。これは言っているのかな？（会場笑い）ぜひ練習にも応援に来て頂き、新戦力について（皆さんで）それぞれ分析して頂き、話して盛り上がりたて欲しいと思います。

チーム作りについては記者会見でも申し上げましたが「戦う集団」ということでとても秋田らしいチームです。秋田とはゼルビアと一緒に仕事をする前から友人として知っていたのですが、私が思っていた以上にとてもいい指導者だなと思いました。さすがにアントラーズで何連覇もしてきたということもあって、良いこだわりを持っています。良いと思えばどんどん受け入れ、システムについても4-4-2を基本とし、4-2-3-1、3-5-2など、相手にもよりますので最低でもこの三つのシステムでそれぞれのディフェンスをキャンプで徹底的にやっていくつもりです。

秋田のサッカーといえばヘディングということで、ヘディングとディフェンスにとってもこだわりを持っています。以前もオフENSEの練習をしていたのにディフェンスの練習になってしまうんですね（会場笑い）。それはそれでオフENSEも鍛えられるからいいのかなと思います。トレーニングの基本は失敗させること、いかに失敗させてチャレンジしていくか、失敗を繰り返すことで向上させていくかです。

秋田はディフェンスにベースを置いていますので「負けない」といったことがとても大事になります。そのなかで少ないチャンスを如何に物にしていくか。JFLで戦う上で、少ないチャンスを・・・といったらネガティブになるのかもしれませんが、もう勝てると思ってはいけません。色んな甘さがあります。このクラブには昨年どこの部分を見ても甘さがあったと感じています。誰もJFLに落ちると思っていない雰囲気がありました。誰かが何とかしてくれるだろうとそういう空気がありました。試合というのは負ける（事もある）し、入れ替えがあるから最下位では落ちる。そこは経験の差だと思っています。どこのチームもそういった経験をして落ちてはいけないんだ、落ちたら苦しいんだと（考えるようになります）。落ちたら選手の給料は下がる、クビになってしまう、勝又も平本も出て行ってしまう、それが現実なのです。落としてしまっただけでいけないという認識についてクラブ全体が甘かったのではないかと、もっと言えば今ここにいるサポーターの皆さんにも甘さがあっ

たのではないか、ちょっと優しくったのではないかと思います。支えるということは良いことではありますし、ブーイングをしないというのは本当にありがたいことです。自分の教え子で様々な指導者が注意をしても気付かなかった（すぐボールを）持ってしまう選手が、とても簡単にプレーするようになった。どうしてそんなに上手くなったのかと本人に尋ねましたら、いつもここに（頭の後ろを指して）いるサポーターが怖くて仕方がない。ミスをして試合に負けたら家からも出られない。しかし、早い展開ができて上手くオーバーラップしてチームが勝利すると、どこに行っても喜んでもらえる。その選手はサポーターに成長させてもらった・・・と。ハード面の問題でもありますが、専用スタジアムの鳥栖や鹿島、柏では生の本当のお互いの声が良く聞こえる、それこそ罵声などもあるし行き過ぎた発言もありますが、サッカーは誰のものかという観点に戻れば、応援してくれるサポーターのものだとしたら不甲斐ないプレーに文句を言っていないと思います。但し良いプレーだと思ったら拍手していいとも思います。ブーイングを規制していたわけではないと思いますが、子どものために、〇〇のため、〇〇のためと思ってやっていたことに、選手がそこまでの意識に追いついていなかった。もちろん金銭面であったり、経験だったり、身の丈でない部分が非常に多かったのではないかとと思います。（相手だって）みな真剣にやっていますので、勝負というのは些細なところで決まってくる。その差が昨シーズンの結果となってしまったのではないかとと思います。ベルマーレについてもチョウ君が監督になって身の丈を感じて、開幕から走り回るサッカーをした。とにかく前へ、恥じも外聞も無く前へと行くサッカーをし、それが逆に美しさを感じさせ、心をわし掴みにされた感じがあります。そういうところにドラマは生まれるものだと思います。ドラマを作っていくには真剣にやっついていかねばならない。このような会ももっと身近に、皆さんの様々な意見をぶつけ、クラブも意見をぶつけて育てていかなければならない。

私も長いこと育成に携わっていますが、選手一人育てるのも指導者、家族、学校の先生の三者で育てなければいいものになりません。よその子を叱るのは難しいのですが、よその子を叱れるくらいのコミュニケーションをしっかりととっていかないといけません。この町にある財産をこれから作るのです。皆さんのゼルビアなのですから皆さんが育てないといけない。こうあるべきだ、どうあるべきだと言ってしかるべきだと思うのです。そしてそれに対しクラブは結果や姿勢を示していかなければならないのです。

このチームを立ち上げるときに、下川社長、秋田監督の3人で話しをしました。オーナーとしてはどのようなチームを目指しているのかを尋ねたとき、色んな事を言っていたのですが、最終的に下川社長は茶髪とかピアスとか嫌いだと言われました（会場笑い）。そこが大事なところで、守屋さんがずっと育ててきた青少年にいいものを伝えていこうというスタイルの下、選手選考時は茶髪、ピアス、タトゥーをしている選手を外していきました。そういった中にももちろんいい選手もいましたが外しました。それはこれから皆さんとこのクラブを強化していくのですから、町のスタイル、色といったものに取り組んでいけないといけない。しかしそこで結果を出さないと私もクビになってしまうので（会場笑い）、

出来る限りの予算で戦える選手を集めているつもりです。最近、入団選手のリリースがされていますが、なんだか緑色っぽいのでは・・・と、とあるところでは言われたりしています（会場笑い）。しかし、この短期間、限られた予算で選手を見極めないといけない。辛いときに逃げてしまう選手なのか、ごまかしてしまう選手なのかわからない。いいときは皆いい。しかし辛いときに逃げないで一緒に戦える選手なのか、と考えた時にどうしても少しかかわりのあった選手になります。そしてプラス少し違うエッセンスとして大学生や3年以内にブレイクしそうな選手、クラブは経営していかねばならないので3年以内に売れそうな選手など・・・といった要素・バランスも考えて選手選考をしています。たくさん選手が移籍をしてしまいましたが、現状としては12、3人しか採れないので秋田のリクエストを聞き、おのずとディフェンスが多くなっていますが、今は前めの選手の返事を2、3人待っているところであります。ほぼ合意には達しているのですが、相手があることなので発表できませんが。明日の入団（記者）発表には来てもらえればと思っています。とまあ、こんな感じでよろしいでしょうか。

会場笑い、拍手

司会：

質疑応答に入る前に守屋代表からもうひとつ話がありますので、宜しくおねがいします。

守屋：

クラブハウスの建設を実現したいと考えています。当初、緑山に建設を検討していましたが、地域の了解が得られずに現在の小野路となっています。トップチームの選手のためにも専用の練習場とクラブハウスを2、3年以内につくりたいと考えています。皆さんにもいい情報があれば寄せて頂ければと思います。そして緑山についてもあきらめずに情報を集めてコツコツ進めていきたいと考えております。宜しくお願いします。

司会：

それでは、ここからは質疑応答とします。項目ごとに質問をお願いします。まずは【1】サポーターとのコミュニケーションについての質問のある方は挙手をお願いします。

質問者 A 氏：

まずは本日のサポカンの開催に感謝いたします。最終節の湘南戦終了後のセレモニーで下川社長は「びくともしないチーム」にするとおっしゃっていたが、「びくともしないチーム」とは具体的にどういうものか守屋代表に伺いたいと思います。

守屋：

下川社長の真意については社長と話していないのではわかりかねます。想像はできるのですが、推測で話してしまうのは問題があると思いますので、ここでは控えさせていただきます。

楠瀬：社長の真意はわからないのですが、強化部として「びくともしないチーム」は雨にも風にも負けないチーム、辛いときも、夏の沖縄の昼 13 時キックオフのゲームでも耐えられるチーム作りをしなければならないと思っています。J2 に絶対戻るには気候、グラウンド状態、審判等に動じないチームにしたいと思っていますので、引き続きご声援をお願いいたします。

会場拍手

司会：

先ほどの質問については恐らく理念と強化の部分の両方に対する質問としてされたのだと思いますが、質問は順を追って受け付けますので、今はコミュニケーションについての質問をお願いします。

質問者 B 氏：

足立区から来ましたが 30 歳まで町田に住んでおり、また町田に住みたいと思っています。またクラブに対してはこの機会を与えて頂きありがとうございます。集客や認知、広報について質問があります。（町田の）外から見ていまして、認知があまりされていない印象があります。COUMZ さんとの連携の強化で街づくりなどがもっとできたらいいのではないのでしょうか。大学生や若い人のサポーターを増やしたいという思いから、ボランティアに興味がある若者も多いと思いますので、ボランティア活動による単位取得の提案と昨年唐井さんが大学での講義を行っていたようですが、そういった講義をもっとたくさん行い、大学生に認知してもらうのはどうかと思います。それからもうひとつ、チケットは今 1000

円、1500円といった映画にいけるのとほぼ同額であるので、例えばメインスタンド以外は学割でワンコインで観戦でき、ゴール裏などを体験してもらうなど大学生を取り込むような取り組みについて具体的に教えて頂けないでしょうか。

司会：

今のご質問は二つですね？一つ目は大学生を巻き込むやり方はどうかということと、二つ目は地域にボランティア等の取り組みが少ないということですね。

質問者 B 氏：

そうですね。例えばそういったことが可能かどうかということと、具体的にやっていたらいいのかなどということですか。

司会：

はい、ありがとうございます。申し訳ありませんが質問はテーマごとをお願いしたいと思います。できれば今のご質問にお答え頂けますでしょうか。

質問者 B 氏：

玉川大学さんと桜美林大学さんとの連携についてお願いします。

田口：

貴重なご意見ありがとうございます。COUMZさんとの連携についてですが、まず二つのアプローチをしています。一つはボランティア登録のお願いと、もう一つは集客のご協力をお願いしています。（ゼルビアのような）一民間企業が教育機関内で一斉にメールでの告知、ポスターの掲示などをするとなるとまだ難しい部分もあります。

昨年施策してボランティアスタッフについても玉川大学さんから約3名、桜美林大学さんから2名の申し込みがあったりと少しずつ反応は見えています。

集客としてはCOUMZマッチでは（大学のシンボルカラーの）ピンクに染まったように学校として来場してもらうだけでは無く、それ以外でも会場に足を運んでもらうなど学生さんには協力してもらっています。

単位取得についてはCOUMZさんの学生さんのインターンシップを夏に玉川大学では2009年から4名ほど受け入れております。年間を通じたインターンシップなど新たな方法もないものかと模索はしていますが、単位取得となりますと拘束時間などクリアしなければならない問題がいくつかありますので、今後の課題として両大学と話しあっていきたいと思っております。

質問者 B 氏：

それから（ゼルビアによる大学の）講義の回数を増やしていくというのはハードルが高いのでしょうか。

田口：

うまくそういったカリキュラムにあった内容であれば、入れていただきます。定期的になるとクラブスタッフの人数が少ないので、一人スタッフが抜けるとその部分がクラブとして機能が止まってしまうというのがあります。今後そういった連携は大学さん側と話し合いながら機会をいただけるならば続けていこうとは思っています。

質問者 B 氏：

ありがとうございました。

司会：

では引き続き、サポーターとのコミュニケーションについての質問をどうぞおねがいします。出来れば 1 回にひとつの質問でお願いしたいと思います。

質問者 C 氏：

J1 に行くつもりですか？

楠瀬：

はい、もちろんです。

質問者 C 氏：

J1 に行くにはスタジアムが必要となりますが、どうするのですか。

2008 年に駅近スタジアム構想がありましたが、その後全く情報がありませんがその後何か情報はありますか。

司会：

J1 に行くための道筋だとか構想があれば、今お話できる範囲でお答え頂けますか。

守屋：

もちろんチャレンジしていきたいと思っています。スタジアムについては・・・お話は出来ないのですが、市長の頭の中にはある程度、スタジアムについての構想はあります。野津田の改修については私も伺っています。

駅近スタジアムについては（過去に）Jリーグの中でも色々と先走りをして問題となりました。そういうことを先に口にするのも大事ではありますが、まずは野津田が人でいっ

ばいになってしまっしょうがない、新しいスタジアムを作って欲しいよと、そういう声が高まれば・・・。

ゼルビアとしてはスタジアムは欲しいです。しかしそれはゼルビアだけでは不可能なことです。まずは野津田を人であふれさせて、もっと広いところにつくろうよとなれば次の話になると思います。まずは足元をしっかり固めて、人をいっぱい入れる。それからゼルビアのためだけでなく、色々な方と協力して、町づくりとして行っていかなければならないと思います。

口で言うのは簡単ですが実現するには町の人たちと一緒に地力をつけて、駅近の話が自然に出るようにしなければならぬのです。現実問題をクリアしてからの新スタジアムの話になります。

司会：

次の観客動員につながるお話になりましたが、サポーターとのコミュニケーションについての質問はよろしいでしょうか。

それでは次の「来シーズンの観客動員について」の質問を頂戴いたします。

質問者 D 氏：

宜しく願いいたします。集客に関してポジティブな告知についてのお話がありましたが、集客の阻害要因の分析はどのくらいできていますか。なぜ告知しても市民の 1%も集客できないのかをどう分析しているのか教えてください。

田口：

おそらく全体的にクラブの総合力が足りないのだと思います。「なぜ来てくれないのか」という分析は出来ていません。アンケート対象は来場者となってしまうので、来場されていない方にアンケートをとっていないのでデータが無く分析はできていないです。

質問者 D 氏：

2012年のことですが、大切なゲストを仮設トイレでは呼べない、友人を呼べなかったのが私の大きな問題でした。雨が降ったときにどうしようと考えたとき、天気予報に傘マークがあると呼べない・・・と、皆さまも辛い思いをされたと思いますが。スタジアムが出来て少しは改善できること、よほどお金がかかることとあると思いますが、そういったネガティブなポイントは、それはそうではないんだという呼びかけが・・・本来の姿を知らせることが大事だと思うのでご検討頂けたらと思います。

田口：

ありがとうございます。

司会：

他に質問のある方はいますか。

質問者 E 氏：

町田サッカー協会との連携について。私の息子がサッカーをやっております、実はゼルビアの大ファンで、今日ディミッチと握手したとかサインもらったとか、風呂場で応援歌を歌ったりして相当な入れ込みようなのですが、地元のサッカーチームに入っていて、そのチームの試合の日程上、ゼルビアの試合が重なってしまいなかなか観戦できないことが多いです。それは仕方がないとしても、なかには町田サッカー協会が主催する名称ははっきり覚えていないですが「サッカー祭り」というイベントがあり、それがゼルビアの試合日と重なっていたことがあります。そういうのはやろうと思えば調整して、日程をずらして小学生たちを野津田に呼んで、というようなことが出来たのではないかと、観客動員にもつながってくるとは思うので、そういう調整を是非今後はして頂いて大好きなゼルビアの試合を見に小学生が野津田に来られるような機会を増やしてほしいなと思いますが、今後の考え方がありましたら教えて頂きたいと思います。

田口：

確か10月の終わりのほうでしたが、その試合の日のフェアプレーフラッグベアラーの少年が野津田に来て、その後試合観戦をせずにサッカー祭りに帰っていくということがありました。実はそのイベントの開催について試合の数日前に知り、こちらもびっくりしました。個々のクラブの試合は仕方ないにしても、町田サッカー協会主催のイベントについては重ならないよう、今後とも町田サッカー協会とは連携していきたいと思います。また今シーズンの課題として、少しでも多くの町田の少年・少女たちが試合を見に来られるような環境にしていきたいと思います。

守屋：

数日前にも町田サッカー協会の萩原理事長とも話をしました。幼稚園から中学生まで多くのカテゴリーがあって大変ではありますが、協会としてもその件については前向きに考えて頂けるとのことでした。

質問者 F 氏：

ゴール裏にいる人間として、1万人を埋めることについてはこだわりを持っています。年間5試合に1万人を埋める目標にしているとのことですが、残りの12試合に関しても今後J1を見据えるのであれば1万人にしなければならない、そのためにはどうやってリピーターを増やすのが問題ですが、そういったところを伺いたいです。

また、我々としても一見さんをあと4人増やせば4倍にできるという話しですが、チームとサポーターで何かゼルビアのここを見てくれ、という共通した認識で何か誘い込めるものがないかなと思っています。例えばジェフ千葉さんが、これが千葉だというページを一枚立ち上げていますが、まずはチーム側としてゼルビアのここを見てほしい、こういうチームなんだ、というようなメッセージ性のあるものを頂けたらと思います。すぐにと
いうわけではないですが、できればコンテンツか何かがあればと思います。

田口：

観客動員に関しては、昨シーズンは3600人程度であったことを踏まえ、今シーズンは平均として4000人くらいいければと考えています。1万人を入れることを考えたとき、1万人が100%有料入場者となればベストですが、そういうわけにもいかないところもありますし、クラブとしての懐事情というところもあります。

ここ三年間はなるべく招待券を減らし、少しでもチケットを買っていただくことを勧めてきたところもあり、昨年は3600人という結果となりました。そういう現状も踏まえ、まずは17試合のうち5試合に絞って試してみて、どうすれば1万人をクリアできるのかを探りながら、また来シーズンに臨んでいければと考えています。

誘いやすい、誘いにくいといった部分もあるかと思いますが、昨シーズンはゼルビーランドというものを作らせて頂き、今年はもう少しそこを充実させながら、また色々なイベント等も入れながら、サッカーだけでなく皆さんに楽しんでもらえるようなスタジアムの雰囲気作りを進めていくことで、友達を呼びやすいとか、家族で楽しみやすいという状況にしていきたいと考えています。

また、チームとしてメッセージ性のあるものを、というリクエストについては、今まで考えたことがないので、クラブへ持ち帰り検討させていただきます。

質問者 G 氏：

観客動員を増やす施策について、オフィシャルサポーターズクラブ制度について検討してほしいと思います。これは埼玉県某赤いチームの制度そのものではあるのですが、3人1組でクラブに対して公式に登録し、登録の証としてピンバッジ、フラッグなどがクラブから提供される仕組みで他に特典はありませんが、登録することで、チームへの参加意識を持ってもらい、結果として観客動員につながっていくと思いますので、是非ゼルビアでもやっていただきたいと思います。

田口：

是非調べて検討したいと思います。またどういったこと（形態）が町田にとってベストな方法かについても検討したいと思います。

質問者 H 氏：

ポスター掲示や鶴川駅前、町田駅前でのチラシ配布活動をしているときにチケットをその場で売ることが出来ないでしょうか。よくチラシ配布時に『どこでチケット売っているのか』を尋ねられるのでその場で売ることができたら良いと思います。また COUMZ さんの学校内イベントの開催時に売ることが出来ないでしょうか。

田口：

チラシ配布時にその場でチケットを販売する行為については、法的な問題に関わってくるので困難だと思われます。逆にすぐそのコンビニで購入できますよ、といってもらえるようなご案内の仕方が現状では望ましいのではと思います。また、（サガン鳥栖さんが実施されているような）学校内での販売についても、イベント等のグッズ販売時に一緒にチケット販売ができるかどうかという検討も実施したいと思います。

質問者 I 氏：

オフィシャルサポーター制度というのを提案したいと思います。街中で「自分はオフィシャルサポーターである」ということを表示できるような、何か身に付けられるグッズがあればと思います。自治会や小中学校で「オフィシャルサポーターにスタジアムへ連れて行ってもらう」となれば良いのではないかと思います。

田口：

ご意見を鑑み、検討したいと思います。

質問者 J 氏：

FC 町田ゼルビアはサポーターがお金をチームに拠出する手段が少ないと思います。例えば小学生 50 人を招待する招待券を 5 万円として売り出し、一般のサポーターが仲間で持ち寄って招待券を購入すると、クラブから小学生を招待してもらえるといた制度があれば、サポーターとして協力したいと思いますがいかがでしょうか。（会場拍手）

田口：

新たなツールのご提案としてとてもありがたいです。町田市教育委員会から約 5 万人の小学生に対して、企業さんにまとめて買って頂いた招待券を児童に配布するといったことも実施させて頂いています。もっと手ごろに出来るようなものも考えてサポーターの皆さんにも協力してもらえるような施策を考えたいと思います。ありがとうございます。

司会：

では次に町田市立競技場アクセスについてのご質問をお願いします。

質問者 D 氏：

先ほどクラブのほうから野津田へのアクセスはさほど悪くない、というお話がありました
が、私はアクセスは悪いと思っています。私は木曾食堂の近くに住んでいますが、野津田
に行くには野津田車庫まで（バスで）行って山登りするか、町田駅へ出て、鶴川駅まで（電
車で）行きシャトルバスに乗るか、どちらかの方法になり、どちらも一時間以上掛かりま
す。直線距離は 5 キロくらいですが、歩いていくのと同じくらいの時間が掛かります。改
めて（野津田は）交通の便は悪いということでご認識頂きたいと思います。また、路線バ
ス化について、町田市に対してどのような要望をされているのかをお聞かせ願いたい。山
崎団地、小山田といった町田市の中心部から延伸される形で（野津田への）バスが路線化
できれば、それなりに集客できるのではないかと、というイメージを持っています。

田口：

（野津田への）アクセスが良いとは決して思っておらず、だからといってダントツに悪い
というわけではないという意味合いでお話をさせて頂きました。路線バスについてはどの
ルートからというより、競技場内にバス停がありバスが入ってくるのが第一条件として
要望しています。また、町田市には大規模な団地がいくつかあり、各団地から（野津田
へ）路線を延ばしてくださいというような話は町田市のほうへ提案はしていますが、いず
れにしてもすぐに結論が出るという状況ではありませんが引き続き働きかけはしていきた
いと思います。

質問者 K 氏：

野津田から一番近い人口密集地の山崎団地から野津田まで 45 分かかります。町田市民を
（野津田へ）集めることを考えると、シャトルバスを数本でも構わないので、町田駅から
境川団地、木曾団地、藤の台団地を通り野津田へというルートで集客できるのではないか
と思いますがいかがでしょうか。（会場拍手）

田口：

野津田地区、小野路地区には約 7000（実際には 5000 の間違いでした）世帯の居住があり
ますので、バスを利用することなく来て頂けるように、まずはその方面に働きかける活動
をしています。また提案の団地経由のバスルートについては考えたいとは思いますが、以
前町田駅からのシャトルバスを出していた時代があり、1 台あたり 3、4 人しか利用されず、
また交通渋滞が酷かったことから、需要がないものと思っていましたが、今回のご意見を
機に改めて検討したいと思います。

質問者 L 氏：

駐車場を開放することで路上駐車や試合観戦以外の公園利用者に迷惑がかかるのではないかと懸念しています。また、昨年はアウェイサポーターが早朝に公園内へ車が入っていたことがあります。今年は駐車場の利用についてアウェイのサポーターへの告知はしっかりやってもらいたいと思いますがいかがでしょうか？

田口：

路上駐車については警察との連携により一定の成果が得られたと考えています。駐車場があるとはいえ決して十分ではないので、引き続き皆さんへは徒歩、自転車、バイク、公共交通機関で来場していただきたいと思っています。なお今シーズンにおいても、おそらくクラブからは駐車場がある旨の案内はしない予定で考えていますのでご理解、ご協力をお願いいたします。

質問者 D 氏：

駐車場が無いことは心理的な集客阻害要因のひとつであると思っています。例えばジェフ千葉のような駐車券の事前購入方式については、野津田の現状のニーズに合っている対策と思いますので、検討してみてもいいでしょうか。

田口：

駐車場が無いことが集客に影響することについては理解しています。しかしながら近隣の住民に迷惑を掛けるようなことがあってはならないと思いますので、駐車場のアナウンスは無しの方で考えています。また、駐車券の事前購入については（野津田が）公共の施設であるゆえに実現できないという結論になります。

質問者 D 氏：

ではその方法を町田市に委託してみるのはいかがでしょうか。

田口：

市と話をしながら検討していきたいと思っています。

質問者 I 氏：

パークアンドライドについて検討はされていますか。

田口：

まずパークアンドライドを実現するためには、近隣にそれなりに大きなキャパシティの駐車場があり、またそこからのバスの運行が可能であることの 2 点が前提になります。駐車場についてはいくつか候補をリストアップできていて、そこからバスを有料で運行した場

合にペイできるかも含めて検討しているところです。

質問 A 氏：

最初のサポーターミーティングを開催するきっかけにもなりましたが、クラブ側が何を思っているのかがわからないという疑問があり、やはり情報発信が少ないと思うので、頻繁に情報発信をしてほしいのですが、そのあたりはどう考えているのでしょうか。例えばメルマガを発信したり、HP の更新を頻繁に行ったり、サポーターが開設している HP の支援などの連携施策についても検討してはいかがでしょうか。

近藤：

HP による情報発信についてはおっしゃる通り、色々な情報を発信していこうと思っています。昨年に行っていませんでしたが、けが人の情報なども HP で発信していく方向で考えています。クラブからの情報発信が少ないというのは具体的にどのような情報を欲しているのでしょうか。例えば戦況に合わせて社長からのコメントなどでしょうか。

質問者 A 氏：

そうですね。戦況に合わせた社長などからのコメントがあるといいと思います。

近藤：

その辺も含めまして社長等と相談しまして検討したいと思います。メルマガや HP についての支援については私が全てを把握しきれていないという状況もありますが、例えば支える会さんの HP のリンクを貼らせて頂くなどの協力はさせていただきます。

司会：

ありがとうございました。引き続き質問はございますか。

質問者 M 氏：

市役所との連携をこれから強化していくという事ですが、私は仕事上、市役所に出入りをしています、ゼルビアの話題になれば話をさせていただくのですが、職員の温度がものすごく低いように感じてならないのです。ゼルビアがサッカー以外の活動について関わっていることを話すと、そんなこともやってるんだ・・くらいの感じです。クラブも市役所で直接関わる関係部署の観光課やスポーツ振興課だけでなく、市役所でやるイベントをゼルビアとタイアップしてできないものかと思います。もう一度その辺を洗い直して検討して頂きたいと思います。極端な話、ゼルビーをゴミ収集車に乗せて走らせてもいいのではないかと思います。

大友：

町田市の各部署にゼルビアについてのメールを一斉発信するのはやはり（一企業の情報という判断もあり）難しいそうです。スポーツ課、観光課以外の課にも例えば献血や、ゴミ収集車も面白いと思いますが、クラブとしても情報収集し、町田市に提案していきたいと思います。（質問者が）お仕事の際に何か情報が得られましたらまたご提案頂きたいと思います。

質問者 N 氏：

PR の部分とも関係するかもしれませんが、神奈中バスさんにゼルビアの広告入りのバスを走らせてもらえないでしょうか。ゼルビアカラーのバスを広告費を払って走らせてもらい、試合の告知をしてもらってはどうかでしょうか。

大友：

なるべくお金のかからない方法か（会場笑い）、スポンサーさんを見つけてから検討したいと思います。

質問者 B 氏：

今年から JFL に落ちるということで、情報が減るとというのが不安だなあと思っています。足立区に住んでいるので、皆さんのように毎回試合観戦することができなく、去年はエルゴラッソとかで試合後の監督や選手のコメントを見ることが出来たが、今年は HP で監督や選手のコメントを載せる予定はありますか。

近藤：

監督のコメントは引き続き HP に載せていきたいと思っています。選手のコメントや動画メッセージについても HP で無料で提供できればよいのですが、先ほども申し上げたようにモバイルサイトの会員数が少ないということで選手のコメントや動画メッセージは有料にせざるを得ない状況と考えています。他のクラブでは監督と選手 1 人のコメントは HP で、他の選手はモバイルサイトだと分けているところもあるので、そういったところを参考にしながら検討したいと思います。また facebook も近々開設予定でありますので、そちらの方でも情報発信ができればと思っています。

質問者 O 氏：

ネットを使った告知を色々な意見が出されている中で水を差す質問となってしまうのですが、世の中では意外とネットとは無縁の生活をしている人も結構いまして、自分の同年代のいとも携帯電話での情報は見るけど、PC やスマホでのネットワーク情報は見てないよという人たちへのアプローチについてはどのようにお考えでしょうか。

近藤：

PR の仕方について紙の方がコストがかかってしまうのですが、内容が分かれば紙質は少し落としてもいいのではというお声も頂いていますので、街頭で試合の結果や次節のレビューなどを掲載したチラシを配布できたらと思っています。また、朝日新聞さんにご協力頂いているゼルビアプレスという毎週土曜日発行のものもあります。昨シーズンは年 38 回をやらせていただいているので、今年は 40 回にふやしてもらうなど検討し、他にもタウン誌さんにも小さくても情報発信できるようにしていきたいと思います。昨年で言いますと東京新聞ショッパーさん、サンケイリビングさん、昨年に限らず継続して頂いているタウンニュースさんなどにも引き続きお願いしたいと思います。

ホームタウンとも関連してきますが、大友が商店街に行くときに、それこそわら半紙のような紙でもいいので試合結果などを載せて少しでも PR につなげていければと思いますし、その際の配布もご協力頂けたらとてもありがたいと思っております。

司会：

ありがとうございます。時間も迫ってきていますので、先に【6】のテーマに移らせて頂き、その後再度質問の時間にしたいと思います。では、【6】来シーズンを戦う上での強化方針についての質問をお願いします。

質問者 D 氏：

本音で話して頂けるということで、昨シーズン中になぜアルディレス監督を解任しなかったか。また酒井良選手についてどのような経緯で契約満了というリリースになったのか、選手としてどういう評価をしていたのか、町田にとって本当に大切な伝説的な選手に対してどのような交渉をしたのか教えてください。

楠瀬：

その当時は強化部長ではなかったのですが、という言い方をすると逃げになってしまうのですが、クラブとして「最後まで支える」という方針だったと思います。最後までアルディレス監督を支えて残留しようという方針だった。

酒井については私が交渉しました。年齢的なことや、戦うチーム内での彼のポジション的な要求についても話しました。秋田監督とも彼がどのくらいのところまで出来るかを話し、まずは先発ではない（という結論でした）。彼に求めるのはプレーイングマネージャー的なもの、若手を育てる、だけどチームを盛り上げるということ（でした）。

彼に限らず、戸田にしても津田にしても客観的に見て彼らをいかに大事にするかというのがクラブとしてのメッセージだと私は思っていましたので、私が面接をしました。

酒井についてはプレーイングマネージャー的なもの、もちろんベンチ入りはして欲しいけ

ど、先発である可能性は少ないが、そのような立場で契約して欲しいとオファーをしました。彼としてはまだプレーイングマネージャーではなく、純粹に選手としてチャレンジしたいとその場で返事をし「だからどこかテストを受けたい」「どれだけ自分を望んでくれるかをチャレンジしたい」「なのですぐにトライアウトに出して欲しい」という話でしたので、すぐにその場で契約解除となりました。

契約するかしないかという問題で、冷たいやり方かどうかという問題ではなく、彼のリクエストでフリーで他のチームのトライアウトに参加しました。但し「君の引退試合は、戸田にしても津田にしても必ずここでやらせてくれ」という話はしました。「それでいつまでも待つ」「プレーイングマネージャー的なものとしてもどういうポジションであろうと待つ」と・・だから返事を待っていると話しました。そして彼はチームを渡り歩いてテストを受けていたが、いよいよそろそろありません・・ということで社長と3人で話す機会を設けました。そこで酒井から「もう選手はあきらめます。ゼルビアで何か仕事をしたい」ということで、クラブとしては町田をよく知っている酒井には、育成の方で子どもを育てていく、子どもを増やしていくということに力を貸してくれと話しました。そしてたまにトップのグラウンドにも来てもらい、今までのようにチームを盛り上げてほしいと思っています。甘さ的なものもあるかもしれないですが、育成にもスクールにもグラウンドに立ってもらおうということで契約はまだですが、合意に至っています。未定ではありますが、引退試合か引退セレモニーになるかも分からないですが、そのようなイベントはしたいと考えています。

会場拍手

司会：

ありがとうございます。時間も限られていますので、どうしても質問がある方はいますか。

質問者 A 氏：

なぜアルディレス監督を支えるという結論になったのか、そして秋田監督に求めたものをお教えてください。

楠瀬：

支えるというのは、苦しいときにクラブがどうなるかというのが大事で、苦しいから責任者を降ろすのかどうするかなどと色々な意見が出てくるとは思いますが、だからこそ、皆でまとめ、アルディレス監督を「支えよう」ということを再確認しました。10人いたら10人のサッカーの見方があるので、結果からは一概にいえませんが、一度、アルディレス監督と船に乗ったのだから、乗った以上、最後まで支えるのは当然なのかなと、それにつ

いて後悔はしていません。ただ次に進んでいかねばならないので・・・がんばります。（会場笑い）

秋田監督に求めたのはJ2復帰です。秋田に求めたということは私にも求められていること。ただJ2復帰の一言です。そのために色んなことをしています。

質問者 A 氏：

ただ危機感というものがないのではないかと思います。JFLには降格があります。その上で質問です。昨シーズン16戦未勝利ということがあったが、そのときにフロントとして、アルディレス監督に何かリクエストはされたのですか。

守屋：

役員の中でも色々な意見が出ました。しかし私たちは唐井 GM（当時）を信じ、唐井 GM は（レンタル）移籍を含めてテコ入れをされました。

小さなクラブがシーズン中、内部でバラバラになることを恐れましたので最後まで唐井 GM・アルディレス体制でやって欲しいということになりました。それでも結果は最後にはついてくるのだらうと思っていました。しかし、このような結果になったので認識が甘かったと言われるかもしれません。

皆さんもご存知の通り途中解約といっても契約ですから監督を替えることはクラブに出費が生じます。ですがそのことで解約をしなかった訳ではありません。色々と役員間で話ありましたが「任せよう」という結論になりました。

質問者 A 氏：

ありがとうございます。是非J2復帰だけでなくJ1のチームにも勝てるようにしてください。

司会：

時間もありませんので最後にひとりの質問とさせていただきます。

質問者 P 氏：

何をするにもお金がかかり、私たちもユニフォームやグッズを購入したりしてクラブにお金が入るようにしていますが、単純にお金をクラブに出せる仕組み、例えば松本の一口株主のような仕組みを作るのはどうでしょうか。

会場拍手

大友：

制度として一口株主とまではならないまでも、しっかりとした後援会組織の設立を検討しています。新潟や札幌のように後援会でまとまったお金を集めているクラブもあります。急に大きな金額が集まるわけではないですが、大企業が無い中で、応援していただける方、個人の方を増やしていくという意味で後援会の設立を検討していますので、またご報告できる段階になりましたら、ご報告させて頂きたいと思います。

(編集部註：最後にもう一つ質疑応答がありました。話の内容的には問題はありませんが、企業名が多く出ておりました。第三者にご迷惑をおかけする可能性がございましたので割愛をさせていただきました。申し訳ありません)

司会：

ありがとうございました。最後にこの会を主催しました CURVA MACHIDA 代表の大城より一言頂きたいと思います。

大城：

今日はこのような会を開催させて頂き、お時間が無い中、お忙しい中ご出席頂いたフロントの皆さんありがとうございました。そしてオフのあいだ、お忙しいとは思いますがこのように参加頂き、そして建設的な、予定よりも1時間も越える時間、熱い意見を寄せて頂いたサポーターの皆さんに対してもありがとうございました。今シーズン野津田が改修されまして1万人収容のスタジアムが出来るわけですが、このスタジアムはJリーグの基準を満たすスタジアムとしてクラブ側が行政に働きかけに走り回りましたし、サポーターとしても署名活動をして出来たスタジアムです。そのスタジアムに1万人の人で埋めること、Jリーグ基準のスタジアムであることから1年でJリーグに戻ることに、この二つの目標がクラブにもサポーターにも課せられていると思います。しかしこれは行政に働きかけた以上、目標というよりは義務といっても過言ではないと思います。何度か話にも出ましたお隣のチームの「ゴール裏はサポーターが埋める、メインスタンド、バックスタンドはクラブが埋める」という他所のサポーターの引用がありましたが、そのまま僕らの目標とするのもシラクですので、ここにいるサポーターの中にはゴール裏にいる方だけではないのでクラブとサポーターが一丸となって席種関係なく1万人埋めて行きましょう。満員のスタジアムが選手の力となり、そしてクラブの収入になり、強いチームとなりますので、満員のスタジアムを皆でつくっていきましょう。クラブだけでなくサポーターも力を合わせてやっていきましょう。今日はありがとうございました。

会場拍手